

1 白井市政の評価について

論点	白井市政 10 年の評価は、合併後 10 年の評価でもある。自らの市政についてどう評価しているのか。
回答	時代がめまぐるしく変わり、それに対応してきた。住みよさが実感できるまちを目指してきた。

論点	以前の答弁で「市民が成熟していない」と答えたが、その真意は？
回答	民主主義の根幹は選挙である。一昨年の住民投票の際に足を引っ張った市民がいた。市長選挙も投票率が低く 50%を割った。 議員：そういうことがあるから、住民投票と他の選挙を一緒にやらないように議会が提案し、いったんは可決していたのに市長自身が再議にかけて賛成少数で押しきったのではなかったか。

2 産業力の強化、地域通貨について

論点	産業力強化の一環として「地域通貨」を導入しようとしているが、地域の活性化にも産業力の強化にもつながらない規模でしかない。福祉分野と協力し、預託制度も視野に入れて地域の活性化に役立つものとするべきではないか。
回答	当面、制度を発足させ将来的には流通拡大のために、公共事業代金の 2 割程度を地域通貨で支払うことなど流通の拡大について検討したい。

3 山口東京理科大学の公立化について

論点	大学側と協定書まで交わしているが、市民の理解は得られていない。なぜ、公立化して大学を存続しなければならないのか。
回答	公立化により入学者が増える。周辺の経済的影響が家賃収入約 3 億円、商業収入 1 億 5 千万円あり、撤退は問題が大きい。